

日本語版 Athlete Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ-J) の開発

Development of a Japanese version of the Athlete Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ-J)

深野真子*^{1,2}, 峯田晋史郎*³, 干場拓真*²
広瀬統一*², 福林 徹*^{2,4}

キー・ワード：fear-avoidance beliefs, self-report questionnaire, translation
恐怖回避思考, 質問票, 翻訳

〔要旨〕 痛みが増悪する恐怖心から、動くことを回避する思考 (fear-avoidance beliefs ; FAB) が強いと慢性の疼痛や障害につながりやすい。Athlete Fear Avoidance Questionnaire はアスリートの FAB 評価のための質問票として開発されたが、これまで日本語版は存在しなかった。本研究では質問票の翻訳版開発の標準的な手続き (順翻訳→逆翻訳→パイロットテスト) を経て日本語版を作成し、さらにパイロットテストを実施した。一連の過程を経て表現の適切性がある日本語版 Athlete Fear Avoidance Questionnaire を確立した。

緒言

痛みが増悪する恐怖心から、動くことを回避する思考 (fear-avoidance beliefs, 以下 FAB) が強いと慢性の疼痛や障害につながりやすく¹⁾、これまでに腰痛について FAB が機能障害や就業状態の悪化につながる危険因子²⁾ となることが明らかにされている。既存の FAB 質問紙は、広く一般の人を対象としており、アスリートに特化した FAB 質問紙が存在しないことから、Athlete Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ) が開発された³⁾。しかしこれまでに AFAQ の日本語版は作成されおらず、本邦においてアスリートの FAB に対する評価は十分になされていない。

本研究の目的は、原版である英語版 AFAQ を正確に日本語に翻訳し、言語的妥当性を担保した日本語版 AFAQ を開発することとした。

対象および方法

日本語版 AFAQ の開発に先立って、原著者から許可を得た。その後、言語的に妥当な翻訳版を作成する際に標準的に用いられる手順 (順翻訳→逆翻訳→パイロットテスト)⁴⁻⁶⁾ にしたがって開発を進めた。言語的な妥当性を担保するためには、原版と翻訳版の内容的な整合性を保ちつつ、日本語話者に違和感無く受け入れられる表現が求められるため、適宜アスレティックトレーナーおよびスポーツ科学者を交えて内容的な整合性を確認しながら進めた。

1. 順翻訳および逆翻訳

日本語を母語とする翻訳者 3 名が、英語版質問票 (原版) を日本語にそれぞれ翻訳した。それぞれの翻訳案を検討して 1 つの案にまとめた後、アスレティックトレーナーおよびスポーツ科学者らがさらなる検討を加え、最終的な日本語翻訳案を作成した (順翻訳)。次に英語を母語とする翻訳者が日本語翻訳案を英語に翻訳した (逆翻訳)。逆翻訳に基づき原著者とともに翻訳案の検討を行い、内容的な整合性を担保した日本語暫定版を作成し

*1 芝浦工業大学工学部

*2 早稲田大学スポーツ科学学術院

*3 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

*4 東京有明医療大学保健医療学部

表 1 英語版 AFAQ (原版) と日本語版 AFAQ の比較

	原版 (英語)	日本語版
名称	Athletic Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ)	Athletic Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ)
質問文	We are interested in your feelings or thoughts when I pain as a result of a sport injury. Using the following scale, please indicate the degree to which you have these thoughts and feelings when you are in pain due to a sports injury.	この調査は、スポーツによるケガの痛みがある時に、あなたがどう感じ・考えているかを調べる調査です。それぞれの質問をよく読み、下に記された点数基準に従って、スポーツでケガをして痛みがある時のあなたの考えや気持ちにあてはまる点数を各質問の右の欄に記入してください。
回答肢	Not at all To a slight degree To a moderate degree To a great degree Completely agree	あてはまらない あまりあてはまらない どちらともいえない だいたいあてはまる あてはまる
質問文	1. I will never be able to play as I did before my injury	1. 今後はケガをする前と同じようにプレーすることはできない
質問文	2. I am worried about my role with the team changing	2. チーム編成による自分の役割が心配だ
質問文	3. I am worried about what other people will think of me if I don't perform at the same level	3. もしケガをする前と同じようなレベルでプレーしなかったら、周りの人が自分のことをどう思うかが心配だ
質問文	4. I am not sure what my injury is	4. 自分のケガがどういうケガなのか、よくわからない
質問文	5. I believe that my current injury has jeopardized my future athletic abilities	5. 現在のケガが私の将来的な競技能力を台無しにするとする
質問文	6. I am not comfortable going back to play until I am 100%	6. 100% よくならないと、安心してプレーに復帰することができない
質問文	7. People don't understand how serious my injury is	7. 他の方は私のケガがどれくらい深刻なのかを分かってくれない
質問文	8. I don't know if I am ready to play	8. プレーができる状態なのかどうか分からない
質問文	9. I worry if I go back to play too soon I will make my injury worse	9. プレーに復帰する時期が早すぎると、ケガが悪化するのではないかと心配になる
質問文	10. When my pain is intense, I worry that my injury is a very serious one	10. 痛みが非常に強いと、ケガがとても重症なのではないかと心配になる

た。

2. パイロットテスト

日本語暫定版の文章表現の適切性、内容妥当性、実施可能性を検討するため、パイロットテストを実施した。参加者は日本語を母語とする成人6名であった。実施にあたり、参加者の個人情報は一切収集しないなど参加者のプライバシー保護を十分に行った。参加者には調査目的を十分説明した後、自己記入で質問紙に回答するよう求めた。参加者が質問紙に回答している際に回答時間を計測した。

回答終了後、①質問紙全体の印象（全体的に分かりやすかったか）、②説明文および質問文は簡単に理解できたか、理解しづらい部分があったかについて参加者に意見を求めた。

結 果

原版と日本語版の比較を表1に示す。

1. 順翻訳および逆翻訳

原版の表題は「Athletic Fear Avoidance Questionnaire」である。直訳すると、「運動競技での恐怖回避についての質問票」となるが、「恐怖回避」という言葉が本来意図するところよりも深刻で重大な事項を回答者に想起させる可能性があるとして予測された。そのため、表題をあえて日本語訳する必要はないと判断し、原文のまま表記した。

説明の文章およびQ1, 4, 5, 7, 9および10の“injury”は、スポーツ医学的には「外傷・障害」もしくは「傷害」と訳するのが一般的と考えられた。しかしながら、回答者にとってこれらの用語は一般的とは言えず、またカタカナで「ケガ」と表記するのが回答者にとって理解しやすいと判断し、カ

タカナで「ケガ」と訳した。

Q1, 6, 8 および 9 の “play” は直訳すると、「競技をする」となるが、現時点でカタカナ表記の「プレー」が “play” と同義で広く使用されていることから、これらはカタカナで「プレー」と訳した。

逆翻訳案に対して、原著者より Q1 について、受傷後に自分の未来についての懸念であることを明らかにしてほしいとの指摘を受けた。翻訳案に「今後は」という言葉を追加し、了承を得た。

2. パイロットテスト

平均回答時間は、1 分 23 ± 20 秒 (範囲：59 秒～1 分 59 秒，中央値：1 分 15 秒) であった。

①質問紙全体の印象 (全体的に分かりやすかったか) については、参加した 6 名全員が「分かりやすかった」と回答した。また、②説明文および質問文は簡単に理解できたか、理解しづらい部分があったかについて、具体的に理解しづらい部分があったと回答したものはなかった。

以上の手順を踏んだ後、最終的に原著者の許可が得られたため、言語的妥当性の担保された「日本語版 AFAQ」を確定した (表 1)。

考 察

今回われわれは、AFAQ を日本でも使用可能とするため、日本語翻訳版を作成した。他言語で作成された質問票の日本語版を作成する場合、単なる翻訳作業ではなく、文化的背景や言語的な違いを考慮した上で、原版との内容的整合性を担保する必要がある。今回、質問票の翻訳版の言語的妥当性を担保するために用いられる標準的な手順に従って日本語版 AFAQ を作成した。質問票では、外傷や障害に起因するスポーツ場面で起こりえる懸念事項についての思考を問う質問が多く、原版での意味を考慮しつつ日本語話者が容易に理解できるよう、注意深く翻訳作業を進める必要があった。

一連の過程を経て、原版と同じ概念を有し、言語的に妥当な翻訳が成された日本語版 AFAQ (AFAQ-J) が完成した。ただし日本語の文章表現については、必要に応じてさらに検討を加え、原版と同じ内容を維持しつつ回答者にとってより理解しやすい表現を目指すことが必要と考えられる。また、本研究では質問票の言語的妥当性の検討にとどまっているため、今後臨床で行う評価としての妥当性を検討する必要があると考える。

結 語

一連の検討過程を経て、原版と同じ概念を有し、言語的に妥当な翻訳が成された日本語版 AFAQ (AFAQ-J) が完成した。

利益相反

本研究は JPJS 科研費 26870640 の助成を受けて実施した。

本論文に関連し、開示すべき利益相反はなし。

文 献

- 1) Leeuw, M, Goossens, ME, Linton, SJ, Crombez, G, Boersma, K, Vlaeyen, JW. The Fear-avoidance Model of Musculoskeletal Pain: Current State of Scientific Evidence. *J Behav Med.* 2007; 30(1): 77-94.
- 2) Melloh, M, Elfering, A, Egli Presland, C, Roeder, C, Braz, T, Rolli Salathe, C, Tamcan, O, Mueller, U, Theis, JC. Identification of prognostic factors for chronicity in patients with low back pain: a review of screening instruments. *Int Orthop.* 2009; 33(2): 301-313.
- 3) Dover, G, Amar, V. Development and Validation of the Athlete Fear Avoidance Questionnaire. *J Athl Train.* 2015; 50(6): 634-642.
- 4) Guillemin, F, Bombardier, C, Beaton, D. Cross-cultural adaptation of health-related quality of life measures, literature review and proposed guidelines. *J Clin Epidemiol.* 1993; 46(12): 1417-1432.
- 5) 鈴嶋よしみ, 熊野宏昭. 計量心理学. In: 池上直己, 下妻晃二郎, 福原俊一, 池田俊也(編). 臨床のための QOL ハンドブック. 第 2 版. 東京: 医学書院; 8-13, 2001.
- 6) Wild, D, Grove, A, Martin, M, Eremenco, S, McElroy, S, Verjee-Lorenz, A, Erikson, P, Ispor Task Force for Translation Cultural, Adaptation. Principles of Good Practice for the Translation and Cultural Adaptation Process for Patient-Reported Outcomes (PRO) Measures: report of the ISPOR Task Force for Translation and Cultural Adaptation. *Value Health.* 2005; 8(2): 94-104.

(受付：2018 年 2 月 8 日，受理：2018 年 7 月 2 日)

Development of a Japanese version of the Athlete Fear Avoidance Questionnaire (AFAQ-J)

Fukano, M.^{*1,2}, Mineta, S.^{*3}, Hoshiba, T.^{*2}
Hirose, N.^{*2}, Fukubayashi, T.^{*2,4}

^{*1} College of Engineering, Shibaura Institute of Technology

^{*2} Faculty of Sport Sciences, Waseda University

^{*3} Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

^{*4} Faculty of Health Sciences, Tokyo Ariake University of Medical and Health Sciences

Key words: fear-avoidance beliefs, self-report questionnaire, translation

[Abstract] The Athlete Fear Avoidance Questionnaire is a 10-item self-reported outcome measure that was originally developed in English to assess fear avoidance in athletes. In this study, we developed a Japanese version of the Athlete Fear Avoidance Questionnaire and validated it linguistically according to the general cross-cultural adaptation process (forward-translation→ back-translation→ cognitive debriefing). Through the translation and adaptation process, a linguistically-validated Japanese version of the Athlete Fear Avoidance Questionnaire was successfully developed.